

CASBEE 広島 2016年版

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

欄に数値またはコメントを記入

エネピア大手町

配 慮 項 目			評価点	重み係数	内 訳			
■1.「地球温暖化対策」の推進								
1.1 建物の熱負荷抑制								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	1.0	0.25	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御
外皮の熱負荷抑制として、住宅性能評価基準で等級4	4.0	0.75	LRI	エネルギー	1	建物外皮の熱負荷抑制		
小計	3.3	0.14						
1.2 自然エネルギーの利用								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	2.0	1.00	LRI	エネルギー	2	自然エネルギー利用		
小計	2.0	0.05						
1.3 設備システムの高効率化								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	5.0	1.00	LRI	エネルギー	3	設備システムの高効率化		
高効率エアコンを実装設置								
小計	5.0	0.26						
1.4 設備システムの効率的運用								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.00	LRI	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅以外の評価	4.1 モニタリング
共用部のエアコンには外部から運転制御ができるよう通信機器を装備した。	3.0	0.00	LRI	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅以外の評価	4.2 運用管理体制
	3.0	0.50	LRI	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅の評価	4.1 モニタリング
	3.0	0.50	LRI	エネルギー	4	効率的運用	集合住宅の評価	4.2 運用管理体制
小計	3.0	0.10						
1.5 資源・マテリアル対策								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水
キッチン・洗面・浴室の水栓を節水タイプとした。	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用
	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材
	4.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み
小計	3.1	0.31						
1.6 ライフサイクルCO2排出率								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.9	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮		
炭酸ガス発砲のノンフロム吹付断熱								
小計	4.9	0.13						
1「地球温暖化対策」の推進の評価								
	3.8	0.68						
■2.「ヒートアイランド対策」の推進								
2.1 温熱環境の向上								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出		
室内は、高効率エアコンを実装。	2.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上
	3.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善
小計	1.8	0.97						
2.2 交通負荷抑制								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制
駐輪台数を共同住宅指導要綱による台数とした。								3
小計	3.0	0.03						
2「ヒートアイランド対策」の推進の評価								
	1.8	0.17						
■3.「長寿命化対策」の推進								
3.1 耐用性の向上								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振
水セメント比55%以下とし、かぶり厚を確保し、耐久性の住宅性能評価基準を等級3相当とした。	3.0	0.13	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振
	5.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	2.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
小計	3.1	0.44						
3.2 設備の更新性								
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。	2.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
貯湯タンクを外廊下に設置する住戸タイプを多くし、更新しやすいよう務めた。	1.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
小計	2.4	0.56						
3「長寿命化対策」の推進の評価								
	2.7	0.14						
■重点項目の総平均(上記3項目)								
	3.3							